

現在の感染状況と今後の見通し
皆様にご協力いただきたいこと

令和4年1月11日

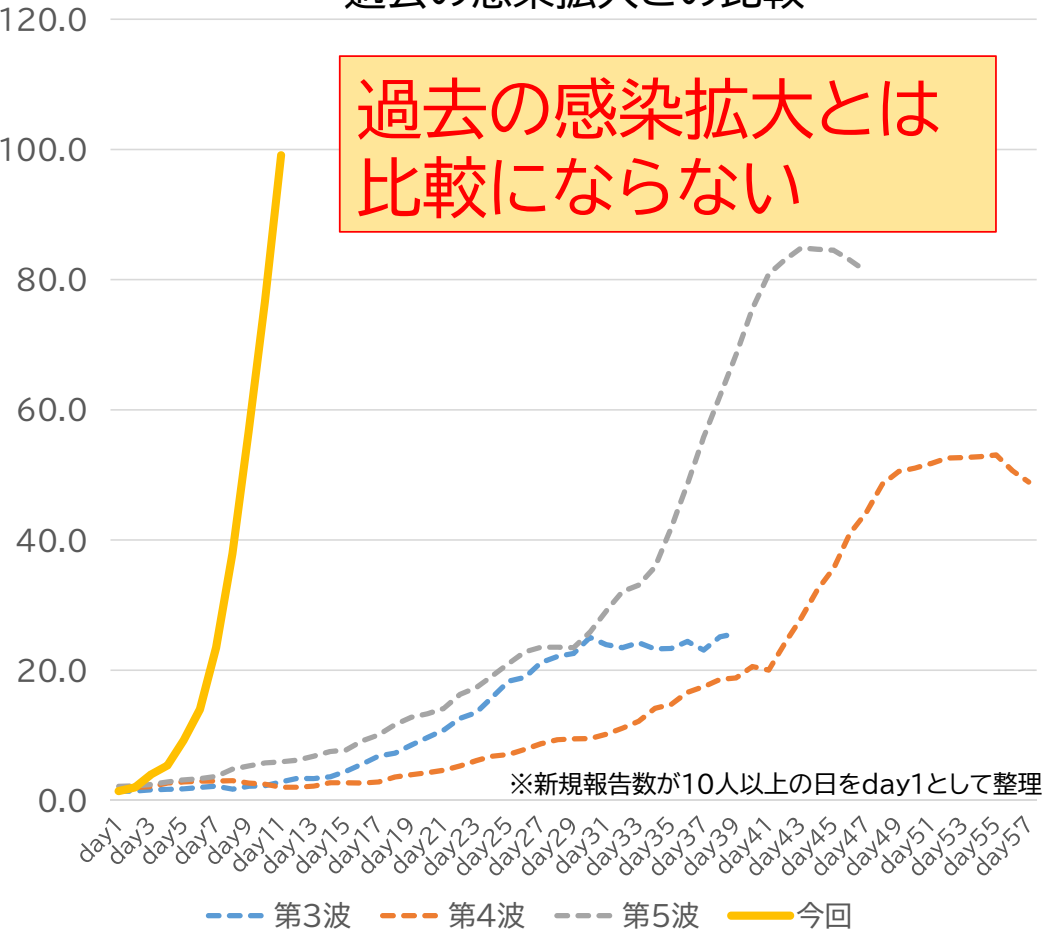
緊急市区郡地区医師会長Web会議

広島県知事 湯崎 英彦

現在の感染状況

過去の感染拡大との比較

過去の感染拡大とは比較にならない



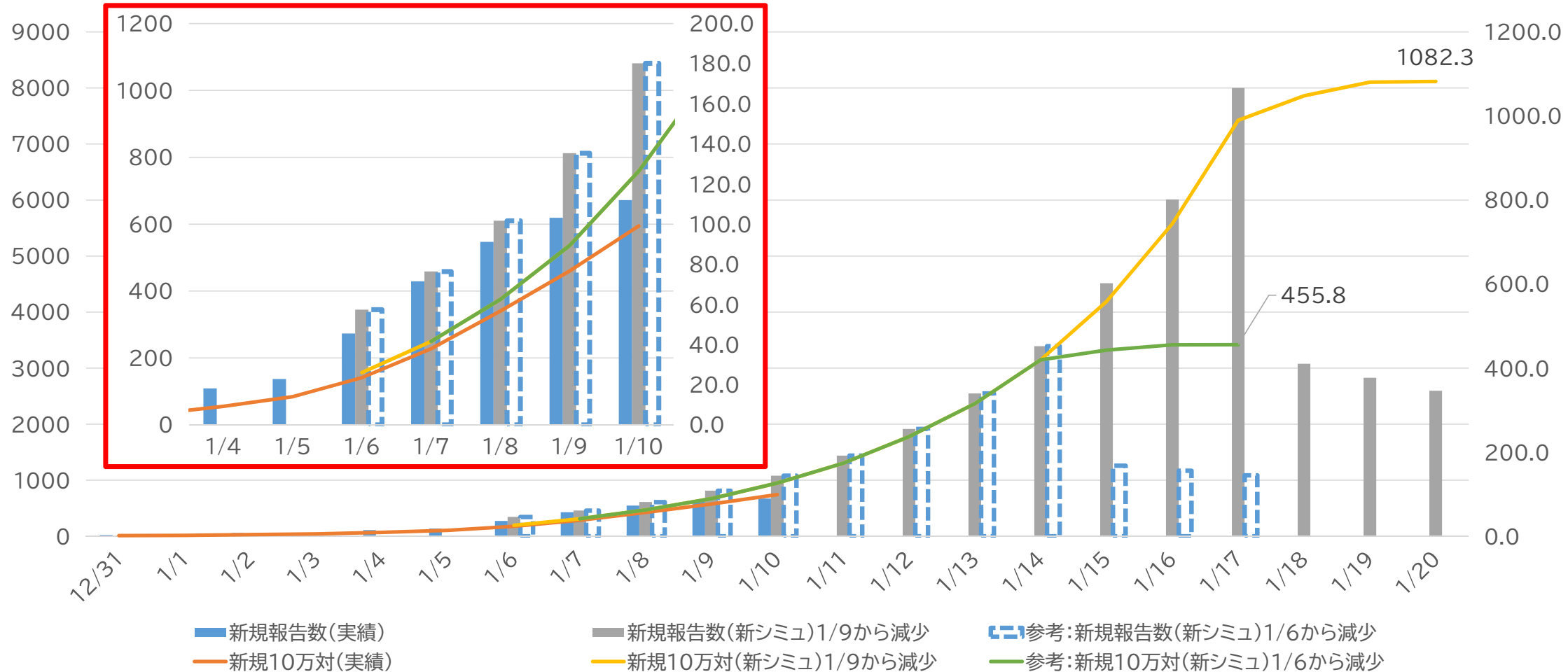
直近の感染者発生状況

前週比18.5



想像を絶する感染拡大速度

感染拡大シミュレーション(1/8実施)



今後多くの感染者が新規に発生すると見込む

各種指標

公表日別の県市別レベル判断の指標					
1月4日(火)~1月10日(月)の1週間					
	広島市	呉市	福山市	広島県 (3市除く)	広島県
確保病床使用率(%)	同右				31.3
確保重症病床使用率(%)	同右				4.3
入院率(%)	同右				6.5
入院率の前週比	同右				1.0
重症者数の推移(前週比)	同右				2.0
PCR陽性率(7日間)(%)	12.7	26.8	42.9	2.6	3.3
新規報告者数(10万対)(人)	142.7	78.4	29.0	83.2	99.1
新規感染者数の前週比	22.5	58.0	22.7	11.7	18.45
新規感染者数の前々週比	853.5	87.0	-	85.4	214.31
感染経路不明割合(7日間)(%)	45.3	46.0	51.5	34.7	42.7
直近1週間の感染者数(人) (上段は先週1週間)	⁷⁶ 1,707	³ 174	⁶ 136	⁶⁶ 769	¹⁵¹ 2,786

※県把握情報をもとに作成(後日若干の修正が行われる可能性あり)
 ※重症者用病床に1/10現在2名。重症者病床は最大46床確保(県全体)、現時点で39床確保(県全体)。また、最終フェーズの確保病床として587床確保。
 ※入院率の指標については、療養者数が人口10万人あたり10人以上の場合に適用する
 ※PCR陽性率は12/30~1/5の7日間(把握している最新情報)について作成。3市分のPCR陽性率には、各市の陽性例で医療機関において検査した結果を含まない。

まん延防止等重点措置適用

まん延防止等重点措置の適用決定

期間	令和4年1月9日(日)~1月31日(月)
対象区域	広島市, 呉市, 竹原市, 三原市, 尾道市, 福山市, 大竹市, 東広島市, 廿日市市, 江田島市, 府中町, 海田町, 坂町 <10市3町>

対象区域：(10市3町)

直近1週間の人口10万人あたりの新規報告数

1/10時点

	安芸太田町	北広島町	安芸高田市	三次市	庄原市	
	162.68	91.76	98.30			
廿日市市	広島市	府中町	東広島市			神石高原町
		130.27		46.26	8.60	0.00
		熊野町		世羅町	府中市	福山市
123.08	142.73	33.45	87.30	49.78	10.26	
大竹市	海田町	呉市	竹原市	三原市	尾道市	
						29.00
227.61	221.85	78.38	39.84	67.67	27.21	
	坂町					
	93.02	江田島市	大崎上島町			
		65.41	40.26			

【対象区域】

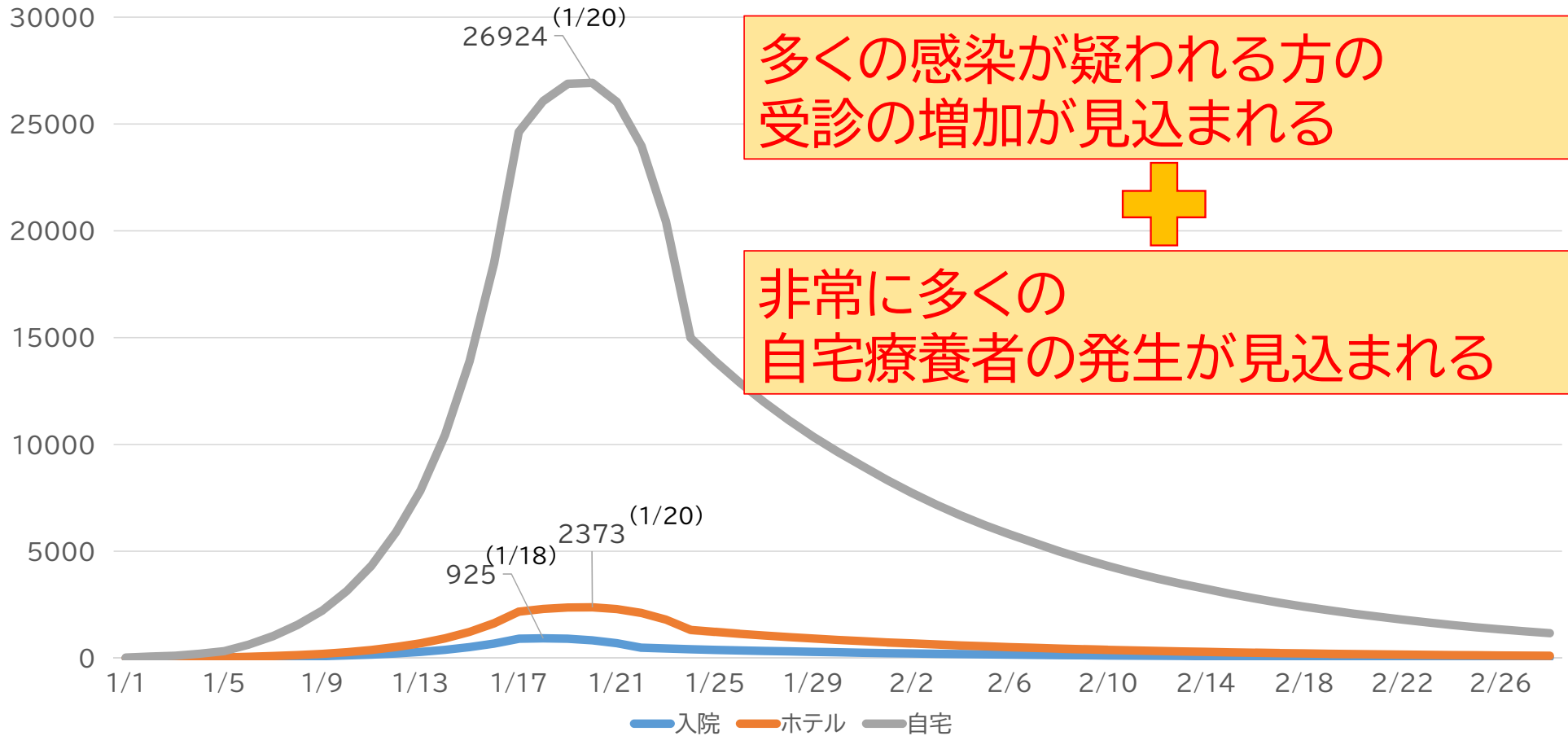
広島市
 呉市
 竹原市
 三原市
 尾道市
 福山市
 大竹市
 東広島市
 廿日市市
 江田島市
 府中町
 海田町
 坂町

- ・人口規模が10万人以上であり、感染拡大している市
- ・それらの市と生活圏が一体である市町

療養者数シミュレーション(1/8実施)

《療養日数》
 入院日数5日⇒寛解した人は積極的に自宅へ
 ホテル7日⇒入所できる限り入所※清掃日数未考慮
 自宅7日

《療養割合》
 入院3.7%⇒重症, 中等症Ⅱ以上(沖縄の割合を参考)
 ホテル7.8%⇒ホテル室数を上限に設定
 自宅88.5%⇒上記以外の療養者



多くの感染が疑われる方の
受診の増加が見込まれる



非常に多くの
自宅療養者の発生が見込まれる

オミクロン株の重症化率と、医療提供体制への負荷のリスク

図8 療養場所と重症度別の療養者数（沖縄県）

2022年1月4日時点

療養場所	重症度	療養者数	
入院	ECMO	0	0.0%
	重症（気管挿管）	0	0.0%
	中等症Ⅱ（酸素投与）	25	3.7%
	中等症Ⅰ	27	4.0%
	軽症	83	12.3%
	小計	135	20.0%
ホテル	無症候・軽症	271	40.1%
自宅	無症候・軽症	57	8.4%
調整中	無症候・軽症	212	31.4%
合計		675	

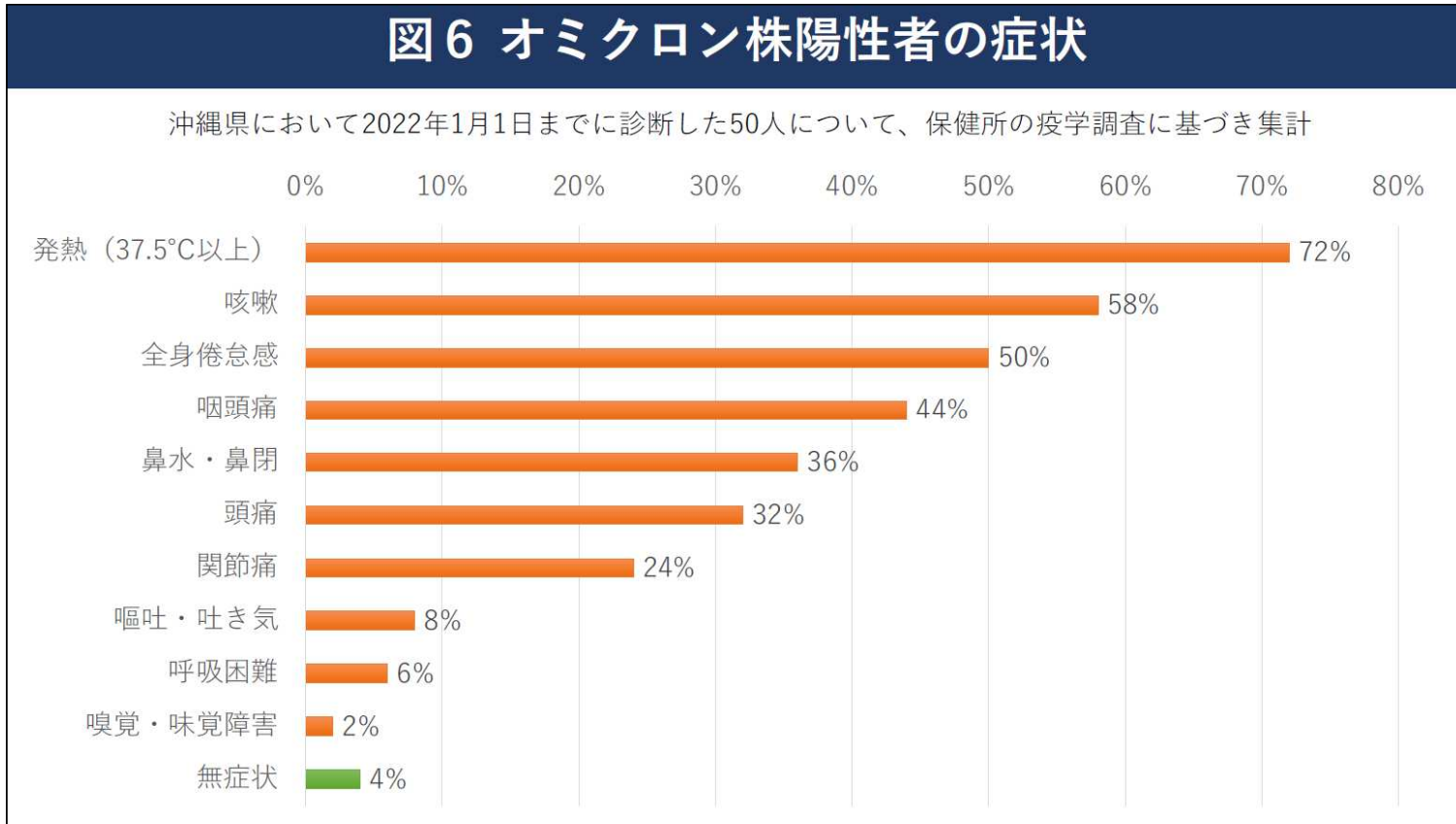
（参考）
 広島県第5波（全期間）の
 中等症Ⅱ以上となる割合
 6.6%

※年代構成の違いや、時点データと全期間データの違いの関係上、直接の比較はできない。

令和4年1月6日厚生労働省アドバイザリーボード資料より引用

仮に症状悪化率が4割減少したとしても、
 感染者が2倍以上発生すれば実際の症状悪化者数は前回よりも多くなり、医療がひっ迫
 今後、高齢者における感染が拡大すればさらに悪い状況に

オミクロン株感染者の陽性判明時点での症状

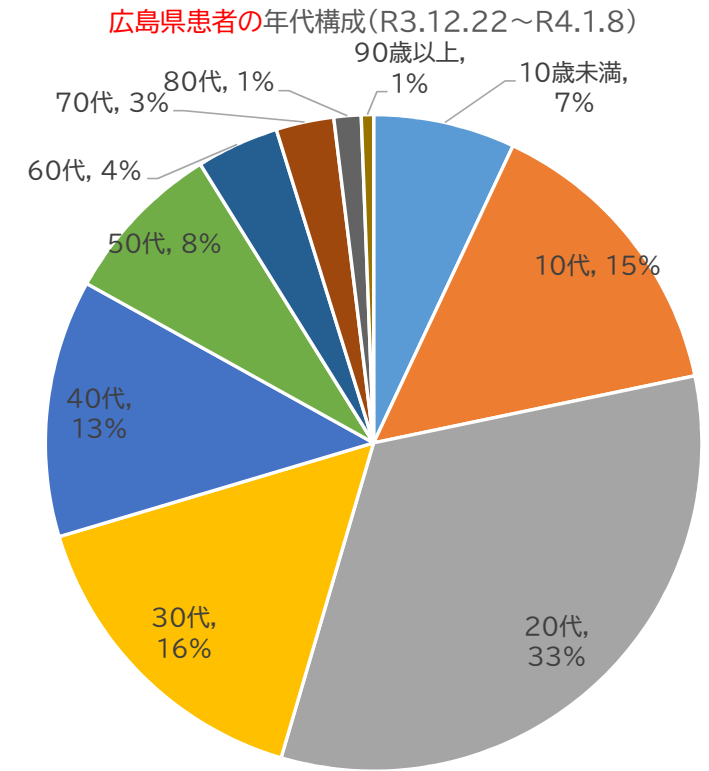
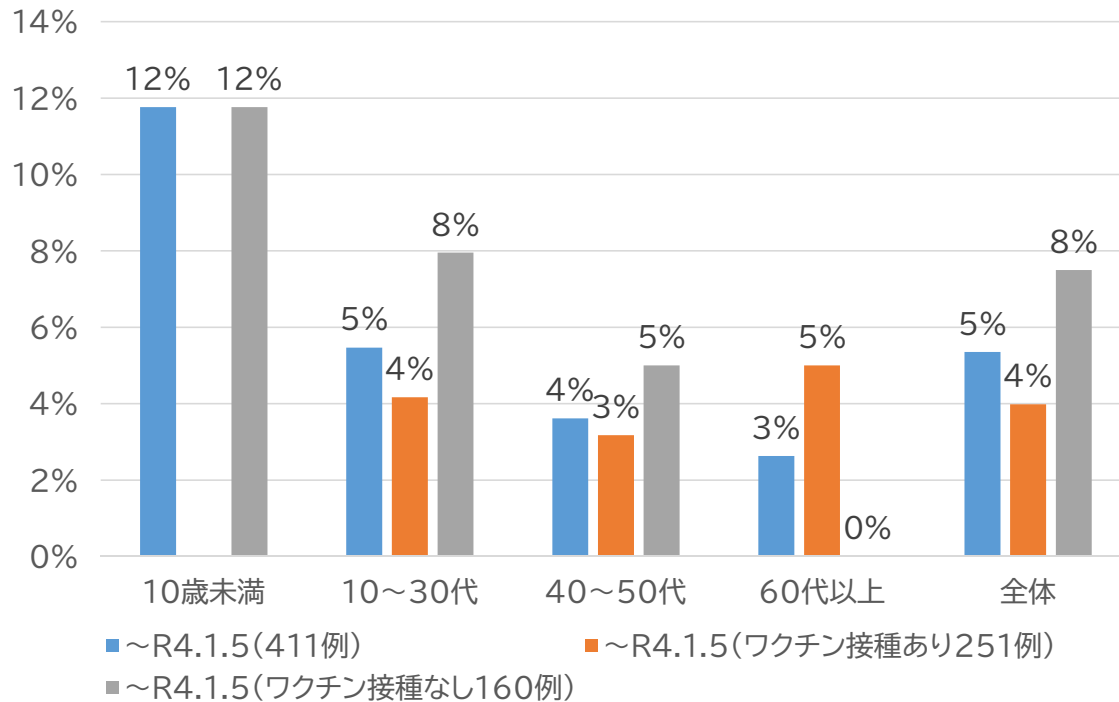


令和4年1月6日厚生労働省アドバイザーボード資料より引用

発熱・上気道の症状がほとんど

オミクロン株感染者の陽性判明時点での症状等

陽性判明時に無症状である割合の比較



無症状者は少ない(何らかの症状はある)
ワクチン接種の有無はこの割合には影響しないと考える

感染者は若年層が多い

医師会の皆様をお願いしたいこと

【今後の見通し】

- ◆さらに多くの陽性者の発生を見込んでおり、
検査対象者や初期治療が必要な者が増大する
- ◆自宅療養患者が増大するため、
体調急変時に適切に入院医療につなげる強固な体制が必要

◆診療・検査医療機関での抗原定性検査の活用

◆診療・検査医療機関における診療、
薬剤処方(解熱剤をはじめとした対症療法薬・経口抗ウイルス薬)の実施

◆全県を対象とした電話・オンライン診療体制(ハード及び人員の充実)の構築

県医師会によるリーダーシップの発揮を期待